



Walking Stick 商品マニュアル

Q & A : こんな時どうしますか？



【いつまでも自分の脚で歩いて健康に！】



2021 年 3 月初版

フジホーム株式会社

1、こんなときどうしますか？ (Q&A)

1) 使用時について

①長時間使っていると手のひらが痛くなる。

- ・グリップの材質や形状は色々な種類がありますが、長時間使う方はご自分の手に合ったグリップ形状や材質を選択する事が重要です。
- ・もし痛くなった場合は、グリップにカバーやガーゼ・ハンカチ等を付けて直接手に触れないようにする事で少しは解消する事もあります。

②雨の日や汗をかいてグリップが濡れると滑ってしまう。

- ・グリップの材質や形状によっては、グリップが濡れた場合に滑りやすくなる事がありますので注意が必要です。
- ・もし、滑ってしまう場合は別売りの「すべり止めカバー」をグリップに装着すると滑りにくくなります。



③ステッキから手を放して置きたい。

- ・両手を使いたい時や食事の時などは、ステッキの置き場に困る事があります。そのような場合、ステッキ自身が自立できるタイプや、ステッキ掛けを使用してテーブルや椅子等にステッキを一時的に引掛ける事もできます。
- ・また、椅子や机の脚に固定できる「ステッキホルダーMGタイプ」もあります。

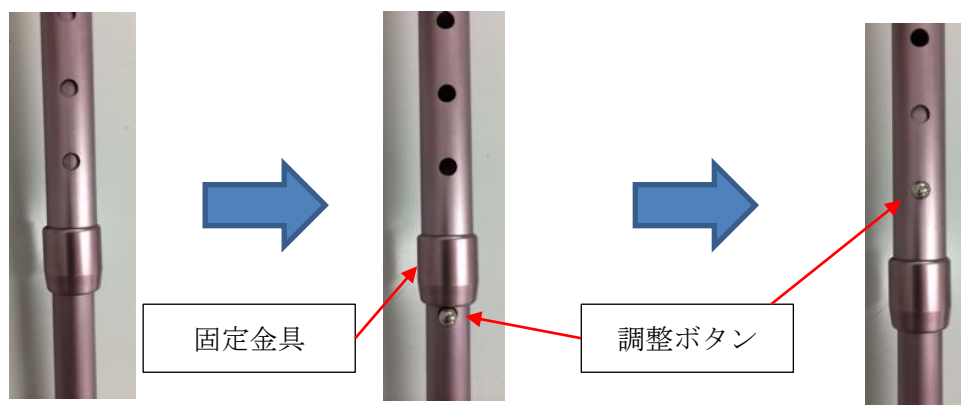


④折畳タイプで固くて折畳みが出来ない。

- ・折畳タイプは長時間使用していると、シャフト同士が食い込んでしまい抜けない場合があります。
- ・そのような場合は、ステッキの杖先の向きを変えながら地面に数回斜めにたたくようにすると、シャフト同士が食い込んでしまった部分が解消されて、折畳が可能になります。

⑤サイズ調整ボタンが穴から出てこない。(位置が判らない)

- ・サイズ調整ボタンが穴から出てこない場合は、下記手順にて確実にボタンが穴から飛出すようにしてください。



調整ボタンの位置が判らない場合

固定金具を緩めて、調整ボタンが飛出すまで下部シャフトを伸ばす。

調整ボタンが穴の下にくるように下部シャフトを回転させて、下部シャフトを縮めて穴からボタンが飛出するようにする。

⑥サイズ調整ボタンが穴から出てこない。(シャフト内に落ち込んでしまった場合)

- ・サイズ調整ボタンを斜めに押してしまうと、ボタンがシャフト内に落ち込んでしまう場合があります。
- ・その場合は、ボタンが落ち込んでしまった方を穴より上にして、ボタンが穴から出てくるまで、シャフトを床等に軽く数回落としてください。



⑦使用中にステッキのサイズが縮んでしまう。

- ・使用中に何かの拍子にサイズ調整ボタンに触れて押込んでしまった場合、調整ボタンが穴から出てこない事があります。
- ・その場合は、必ず一旦固定金具を緩めてサイズ調整ボタンが穴から出ている事を確認してから、固定金具を締めてご使用ください。



※調整ボタンが穴から出ていない状態で使用する事は危険ですので絶対にお避け下さい。

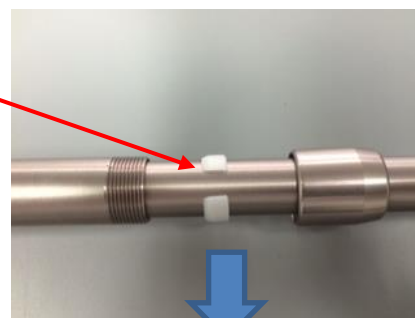
⑧使用時にカチャカチャと金属音がする。

- ・長さ調節が可能なステッキの場合、固定金具を緩めて上部・下部シャフトをスライドさせて長さを調節しますが、その固定金具と上部シャフトのすき間に入っているのが C リングです。
- ・この C リングは、上部シャフトと下部シャフトの緩衝剤の役割があり、C リングが入っていないと上部シャフトと固定金具の間に隙間が生じ、カチャカチャ音が鳴り不安定になります。
- ・これが原因で金属音がする場合が多いので、下記要領で C リングを装着してください。

①固定金具を全部ゆるめて、固定金具が下記写真の位置（下部シャフト）にくるようにします。



②C リングを下の写真の位置の下部シャフトにはめます。



③C リングをはめたまま、固定金具を上部シャフトに固定します。

※C リングが装着されているのにカチャカチャと金属音がする場合は、C リングが緩んでいるか又は先ゴムが擦り減っている場合がありますので、早急に先ゴムを新しい物と交換してください。

(交換方法は、先ゴムの交換方法を参照してください。)



⑨シャフトが伸縮出来ない（インナーシャフトがアウターシャフトに入らない）場合

- ・固定金具を緩めてもシャフトが伸縮しない場合は、アウターシャフト内部に何か障害物が入っている可能性があります。
- ・一番多いのは、固定金具を緩めないで無理やりサイズ調整をした場合、固定金具内部の C リングがアウターシャフト内部に押し込まれてしまうケースがあります。
- ・その場合は、針金等でアウターシャフト内の障害物（C リング等）を取り除いてください。



⑩折畳ステッキのゴムが切れてしまった場合

- ・折畳ステッキのゴムが切れた場合は修理交換が可能です。メーカーによっては対応できないところもありますので各メーカーにお問い合わせください。（弊社は対応しております。）

2、ご使用前の確認事項

- ・ご使用前には必ず各部の点検をしてください。万一、本体のキズ、先ゴムの異常（すり減った状態）などを見つけた場合は、ご使用をおやめください。
- ・サイズ調整が出来る仕様の場合は、サイズ調整ボタンが穴から確実に飛出していることを確認してからご使用ください。
- ・先ゴムがすり減っていたり破れている場合は、速やかに新しい先ゴムと交換してからご使用ください。
- ・先ゴムを取り換えた際には、シャフトの先端が完全に先ゴムの中に入っていることを確認してください。

3、お手入れ方法と保管方法

- ・使用後は屋外に放置しないで必ず屋内にて高温・多湿を避けた場所で保管をお願いします。
- ・雨の日などでステッキが濡れた場合は、必ず柔らかい布で水分を拭き取って、シャフト内部を乾燥させてから保管してください。そのまま放置すると内側が錆びやすくなり劣化の危険性がありますのでご注意ください。
- ・特に折畳タイプの場合は、寒冷地などの低温の場所で保管すると、折畳んだ状態から直ぐにゴムロープの弾性が回復しないことがありますのでご注意ください。
- ・また、折畳タイプを保管する場合は「折畳まないで伸ばした状態で保管」してください。
- ・折畳んだ状態で保管しますと、3カ所の折畳み部分のゴムロープが伸びきってしまい、使用時に組み立てが出来ない場合がありますので、ご自宅に戻った際や、しばらく使用しない場合は伸ばした状態にしてください。

4、修理対応

- ・一般的な棒状杖（一本杖）の場合は SG（製品安全基準）にて品質を確認しているため、先ゴム及び折畳用ゴム以外の部品が交換できません。
- ・一部、修理用交換部品を用意している機種もありますので、都度お問合せください。

【商品に関するお問合せ先】

フジホーム株式会社

東京都中央区新川 2-12-15 ヒューリック八丁堀ビル 7 階

TEL:03-3523-1631 FAX:03-3523-1632